

## 「第2回 <sup>なかま</sup> 中間堰技術検討委員会」議事要旨

### ■沈下要因について

委員会において以下の意見を得ました。

- ①地質調査や試験により、支持岩盤の地質構成が複雑で、地盤強度特性、変形特性が大きくばらつくなど、支持層岩盤の地盤特性が一様でないことがわかった。
- ②杭の健全性を確認したところ、杭先端部の処理が十分でない杭があることがわかった。
- ③その他に、杭の周面摩擦力度が小さかったこと、注水による水重が荷重として生じたこと等が確認されており、これらの事象も沈下要因に関わっている可能性も否定できない。

### ■対策工について

委員会において以下の確認がなされました。

- 要因①～③に対して、杭先端の支持力を確保するため、高圧噴射攪拌工法により杭先端部を改良すること。なお、改良効果の確認のため、試験杭による載荷試験を実施すること。あわせて湛水期間中の床版の挙動観測を行うこと。
- 改良効果が不十分な場合は、増杭等の対策を講じること。

### ■今後の対応について

- 今回の沈下要因、対策工を踏まえ、今後同様の工事に活かすべきものを留意点として整理すること。
- 次回委員会では、左岸側の設計・施工方針を報告すること。